

Daily Report (号外)

～3日の米国株式市場の急落について～

概要

3日の米国株式市場は、ハイテク銘柄を中心に利益確定の売り圧力が高まったことなどから、S&P500 ▲3.51%(前日比、以下同)、NYダウ ▲2.78%、ナスダック総合 ▲4.96%といずれの指数も大幅下落となりました。S&P500業種別では全セクターが下落となりましたが、ハイテク銘柄のウェイトが高い情報技術、一般消費財、コミュニケーション・サービスセクターがそれぞれ▲5.83%、▲3.56%、▲3.35%とS&P500をアンダーパフォームした一方、低迷していたエネルギー、公益セクターがそれぞれ▲0.67%、▲1.26%とアウトパフォームしました。

VIX指数も前日比+26.5%と急騰し33.6ポイントと7月半ば以来の30ポイント超えとなり、ナスダック100のボラティリティ指数であるVXN指数も前日比+14.4%の42.1ポイントと4月以来の高水準となりました。

米国10年債利回りは前日比1bp低下の0.63%、NY金先物は▲0.35%、WTI原油先物は▲0.34%と小動きの展開となりました。

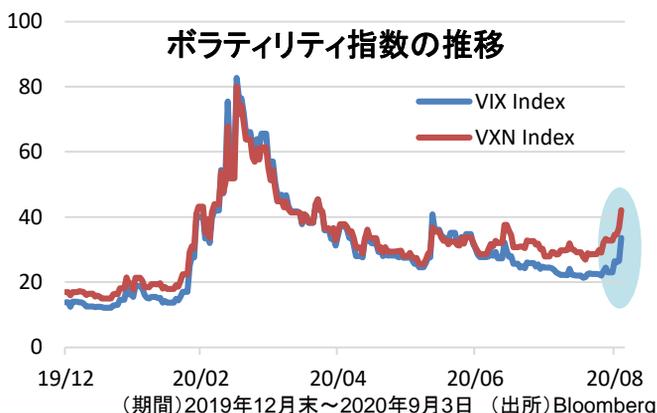
(株式市場下落の背景)

2日、NYダウは6ヵ月ぶりに29,000ドル台に乗せ、ナスダック総合も12,000の大台を突破しました。しかし3日、Facebookが米大統領選前に政治広告を制限する方針を発表したことで広告収入の「稼ぎ時」を失うことが意識され同株式は前日比▲4%下落する等、これまで株式市場の上昇をけん引してきた銘柄に対し投資家の高値警戒感が高まりました。その他AppleやAmazon、Teslaなどのハイテク関連が軒並み大幅に売られるなど、グロス・モメンタム銘柄への売り圧力が強い展開となりました。7日のレーバーデー(米国の祝日「労働者の日」)前のボラティリティ上昇を受け、流動性懸念が高まった点も売り圧力を高めたとされています。

また新規失業保険申請件数が依然として高水準の状況が続いていることや、8月のISM非製造業総合景況指数が予想を下回る結果となったことも、相場下落の要因となりました。

米労働省が3日発表した8月29日までの週の新規失業保険申請件数(季節調整済)は88.1万件と、前週の101.1万件から減少し、予想(95.0万件)以上の改善を示しましたが、依然として高水準の状況が続いています。

米供給管理協会(ISM)が発表した8月の非製造業総合景況指数は56.9と予想の57.0を下回る結果となりました。前月(58.1)からも1.2ポイントの低下と、指数低下は4ヵ月ぶりの結果となりました。サブ指数のうち、雇用指数は47.9(前月42.1)と6ヵ月ぶりの高水準で改善を示したものの、新規受注は56.8と前月から10.9低下し、3ヵ月ぶりの低い水準となりました。



評価及び今後の見通し

米国の株式市場は、S&P500やナスダック総合が2日までほぼ連日で高値を更新する一方、恐怖指数と言われるVIX指数も同時に上昇し、また機関投資家の強気度が約2年ぶりの高水準に達する*など、高値警戒感が強まっていました。株価の下落幅に比べると、長期金利やドル円の低下幅は限定的にとどまっており、リスクオフと言うよりは、株価のレンジ圏でのスピード調整という見方が適当と考えています。

2日の国内株式市場でも日経平均株価がコロナショック前の水準を回復するなど、主要先進国で株価の堅調ぶりが目立っていますが、中央銀行の強力な金融緩和が下値を支える一方、足元での景気回復ペースの鈍化が重石となり、当面株価は高値圏レンジでもみ合う展開を想定しています。

* 各種報道より

(ご参考) 今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
9月	17日: 日銀政策決定会合	15-16日: FOMC	10日: ECB理事会

出所: Bloomberg